

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000721		
法人名	株式会社 Human-Line		
事業所名	グループホーム自由の丘(1F)		
所在地	小樽市長橋2丁目22番4号		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年2月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000721&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海を一望できる高台にあるホームで、毎年夏になるとホーム前の芝生では焼肉パーティが恒例になっています。そこには穏やかに自分らしく過ごされている笑顔の入居者様の顔があります。そんなホームが自由の丘です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、開設後6年以上を経過しましたが、殺菌作用のある加湿清浄器設置など衛生面にも細かく配慮しており、建物全体に清掃が行き届いて清潔感が保たれています。ホームは高台に位置しているため、リビングルーム兼食堂の広い窓からの眺望は素晴らしく、季節毎に変化する景観を楽しめる施設です。利用者への日常的ケアサービスも、ホーム長の思いを込めた運営方針と行動に触発されて職員も利用者本位に努めているため、家族からも職員が親切で明るく、親身になって世話をしているため、高い評価を得ています。運営法人は、4カ所のグループホームを展開しているため、運営体制も確立されていますが、さらに、人材育成にも力を入れて内・外部研修の機会も多いため、多忙な業務の中で自己研鑽に励む職員が多く、優れた人材の成長が期待され、職員による熱心なケアサービスが、利用者により安心して、ゆったりと居心地良く過ごす生活を提供しているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員のネーム裏に理念を掲載し業務に携わる前には必ず読み返しケアに反映している。	ホームの理念は、職員が検討して独自に作りあげ、名札裏にも記載して共有しています。職員は、日常業務の中で、理念を意識しながら支援に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会で行われる廃品回収や子供お神輿等積極的に参加し手伝いをしている。 ホーム前が休憩場所になっているので入居者様の皆様と子供たちが話をされ交流を深めている。	ホーム主催の合同レクリエーションに、地域の方々が多数参加し喜ばれています。町内会行事の廃品回収や祭事にも参加し、御輿の休憩場所になるなど、地域との繋がりがありません。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方々には現在の所認知症についての理解がなされていないがホームの行事に参加するように声掛けをしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度に運営推進会議を開催し会議で話し合われた事は別紙にて記録して保存し話し合われた事を職員全員へ周知し今後のサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、定期的に町内会、行政、警察署等、各分野から参加を得て開催し、運営に関する意見を頂きながら、サービスに反映させるよう努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かわからないことがある時はその都度担当者さんの所へ電話又は出向いて相談しています。	法人の担当者が頻繁に行政窓口を訪問し、相談や情報交換をしています。管理者も電話以外に必要なに応じて随時担当者と接触し、行政との連携に取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には身体拘束の研修会に積極的に参加し会議などで職員全員に共有認識している。	ホームは、身体拘束をしないケアのためのマニュアルを完備し、研修も実施しているため職員も理解しています。玄関の施錠は夜間のみで、ユニットの施錠はありません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成しているので職員全員に周知している。また研修会等にも積極的に参加しているのでその都度勉強会を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人が必要とする入居者様が入所されているので後見人の方と話し合い、連携をとっていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には御本人、御家族にわかりやすく説明している。また御家族には不安な事を聞いたりまた入居者様の立場になって考えています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日の会話の中から表情、態度、言葉からその方の思いを感じ取りカンファレンスをユニットごと話し合いをしました面会時等御家族と話をする様にし、御意見箱を設置し意見交換できる体制をとっている。	家族への情報提供は、毎月、広報誌と一人ひとりの詳細な記録を送付し、来訪時にも伝えています。家族からの意見等は、申し送りや全体会議で協議しながら、課題解決に向けて取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日職員とコミュニケーションをとっている。また、表情をみて何かあるような時は聞き出しています。月に1回は面談して意見を聞いています。	ホーム長は、職員とのコミュニケーションを重視し、自由に話し合える環境にあります。法人担当者も職員と随時面談し、意見等をホーム運営に活かすようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部の研修に受講できる様にしている。また資格取得に支援しスキルアップが出来る環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他施設で行われる研修会に積極的に参加しまた職員全員に報告書としてまとめて回覧し時には全体会議で発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に出席したりグループホーム相互研修を通して交流を図ってサービスの質を向上している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の思いや願い、不安等聞き入れ安心して頂ける様に信頼関係を築く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が何を思っているか？困っている事はないか？要望を受け取り意向に沿う様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様や御家族の思いや願いを出来る限り実現できる様支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である事を決して忘れずに敬意、不安、楽しみ、喜び、悲しみ等を共にし信頼関係を作っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の暮らしを文章化してお知らせしたり面会時や広報を通じてお知らせし御家族との関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の趣味や買い物等には可能な限り支援している。またお墓参りを続けている入居者様の支援をしている。	利用者の希望に応じて買い物、美容院、短歌の会、墓参りなどの外出を支援し、知人の来訪も歓迎し、馴染みの関係を維持するよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コーヒータイム時や食事時、おやつ時などには職員と交えながら入居者様同志仲良くお話して頂ける様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた入居者様の所へ訪問したり入院されている入居者様を見舞いに行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人、御家族から希望や思いをお聞きし、また日々の関わりの中から表情等から思いをくみとり意向を把握している。	利用者の思い等の把握が困難な場合は、事前に得た家族からの情報を参考にし、表情や行動から意向を汲み取り支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め	御本人、御家族から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御本人の出来る事への参加を見極めその人らしい生活を提供している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員から意見や思いをお聞きしアセスメント作成、モニタリングにて評価を見直して作成している。	介護計画は、センター方式を主として詳細な内容を盛り込み、モニタリングやアセスメントを行いながら担当者会議で検討し、利用者の状況を見ながら、随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個人別にてファイルに保存し御本人の出来事、話された事をそのまま記録し必要とならば申し送りノートへ記載しそれをもとに介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族がいつでも泊るよう支援している。買い物や病院送迎にも柔軟に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や町内民生委員と話をする機会を設けている。近隣のグループホームのお祭りにも参加したり地域との協力体制をとっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される前からかかりつけの病院に受診して頂いている。また週に1回内科往診、週に2回整形往診行っている。また必要であれば歯科往診も受けている。	内科と整形外科による定期的往診が実施され、希望に応じて歯科の往診もあります。利用者や家族の希望で、かかりつけ医への受診も自由で、職員が対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で看護師と連携をとっており相談、助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際はその方の情報を提供し入院中ではお見舞いし御家族と話しています。退院時では支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に変化があるごとに医師、看護師、御家族と話し合いの場を設け御本人の思いを尊重し職員全員で支援している。	重度化や終末期の方針を作成し、家族へ説明して同意書を得ています。上記に関するマニュアルも整備され、勉強会等を通して全職員が方針を理解しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間救急時での対応マニュアルや火災時での対応マニュアルを作成し職員全員に周知している。また救急講習等職員全員研修している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の方と一緒に日中、夜間とそれぞれ想定した避難訓練、消火器訓練を実施している。緊急時では近隣のGHとの協力体制をとり避難場所の確保をしている。	年2回の避難訓練や夜間想定訓練を実施し、運営推進会議でも災害時の協力を要請しています。また、非常食や備品類も完備しています。	災害時には、周辺住民の方々による協力が不可欠です。町内会会長が避難訓練に参加して頂きましたが、今後は、多数の住民参加と協力体制について検討し、地域の理解を得るよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であり日々の関わりや適切ではない言葉使いは注意しプライバシーについても研修し情報管理は徹底している	職員は、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけなどに配慮しています。介護計画など個人記録も適切に管理されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々と提案し入居者様ご自身を選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩など希望があれば対応し、遅くまで観たいテレビがあればその方のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の好みの服装を着て頂いたり外出される際は化粧等して頂き、1ヶ月半に1回ホームに床屋さんに来ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備や盛り付け、食器洗い等見守りしながら行っており職員は入居者様の間に入り一緒にお話しながら楽しく食事し誕生日にはお好みの物を提供している。	利用者には、食事準備や後片付け、簡単な調理も手伝って頂いています。食事中は、職員と一緒に同じ食事を取りながら、楽しそうに過ごしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の食事、水分摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けにて歯磨きを実施しご自分で行われない入居者様には見守り、介助し就寝前は義歯洗浄し保管している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し声掛けにてトイレ内にて排泄できる様トイレ誘導をしている。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を作成し、排泄間隔等のパターンに応じた排泄誘導を行いながら、排泄の自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ体を動かして頂く様ラジオ体操に参加して頂いている。また、起床時には冷たい牛乳やお水を飲んで頂く様にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴される際には体調の確認をし入浴して頂いている。毎日入浴を好む入居者様には入浴して頂いている。	入浴は、午前と午後の時間帯に利用者の状態を判断しながら実施しています。入浴回数は週2回以上を原則としていますが、希望により毎日入浴の利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なかなか眠れない入居者様にて居間にて職員とお話したり温かい牛乳を飲んで頂く様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり入居者様が服用している薬の一覧表を作成し服用して頂く際は御本人と名前を確認し手渡しし薬を服用して頂きチェック表に書き込み確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の準備や掃除機掛け、おしぼり洗いをして頂いており感謝の言葉を伝えて頂いている。また作業療法に参加して頂き気分転換の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良く暖かい日等にはホーム前のベンチにて外気浴やお散歩またドライブ等に行くよう支援している。	利用者は、ホーム周辺の散歩や芝生のベンチなどで外気浴を楽しんでいます。また、車両を利用して買い物、外食、花見なども随時実施して喜ばれています。	冬期間の外出機会が少ないため、車両でショッピングセンターなど、大型屋内施設訪問等の検討を期待します。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様ご自身でお金の管理を出来る方は病院受診の後買い物をされている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度電話や手紙を出せる様にしている。毎年御家族に年賀状を出している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じさせられる花を飾っている。料理の際にも季節を感じさせる食材を取り入れている。	ホームは、開設後6年以上を経過しましたが、総体的に明るく、清潔感が保たれています。居間は広い窓で眺望に優れ、空気清浄器や殺菌加湿器もあって衛生面にも配慮され、利用者は居心地良く過ごしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	喫煙場所にてタバコを吸われながら入居者様同士お話ししたり他入居者様の居室へ行かれお話ししている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れている物、馴染みの物等居室に置かれている。また仏壇を持ってこられている入居者様もいる。	居室は日常生活に十分なスペースがあり、物干し具や換気の器具も設置されています。利用者は、テレビや調度品などを自由に持ち込み、ゆったりと安心して過ごしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には車椅子を使用しやすい配慮をしており歩行が不安定な方は手すりを使用しながら歩行して頂いている。			